

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

| | |
|--|---|
| 出願人代理人 特許業務法人特許事務所サイクス あて名 〒 104-0031 東京都中央区京橋 1-8-7 京橋日殖ビル 8 階 | 様 |
|--|---|



PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年)

12. 4. 2005

出願人又は代理人
の書類記号 A 4 1 8 6 8 M

今後の手続きについては、下記 2 を参照すること。

国際出願番号
PCT/J P 2 0 0 5 / 0 0 0 9 7 9

国際出願日
(日.月.年) 2 6 . 0 1 . 2 0 0 5

優先日
(日.月.年) 2 6 . 0 1 . 2 0 0 4

国際特許分類 (IPC) Int. Cl. A 6 1 K 3 1 / 7 0 4 , 3 5 / 7 8 , A 6 1 P 2 5 / 0 4

出願人 (氏名又は名称)

二宮 幸三

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第 I 欄 見解の基礎
- ☐ 第 II 欄 優先権
- ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第 V 欄 PCT 規則 43 の 2. 1 (a) (i) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献
- ☐ 第 VII 欄 国際出願の不備
- ☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関が PCT 規則 66. 1 の 2 (b) の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式 PCT/ISA/220 を送付した日から 3 月又は優先日から 22 月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式 PCT/ISA/220 を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式 PCT/ISA/220 の備考を参照すること。

見解書を作成した日

2 4 . 0 3 . 2 0 0 5

名称及びあて先
日本国特許庁 (ISA/J P)
郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5
東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号

特許庁審査官 (権限のある職員)
渡辺 仁

4 C 3 2 2 9

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 4 5 2

様式 PCT/ISA/237 (表紙) (2004 年 1 月)

BEST AVAILABLE COPY

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☒ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☒ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☒ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

BEST AVAILABLE COPY

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

| | | | |
|----------------|-------|-------|---|
| 新規性 (N) | 請求の範囲 | 1 - 5 | 有 |
| | 請求の範囲 | | 無 |
| 進歩性 (IS) | 請求の範囲 | 5 | 有 |
| | 請求の範囲 | 1 - 4 | 無 |
| 産業上の利用可能性 (IA) | 請求の範囲 | 1 - 5 | 有 |
| | 請求の範囲 | | 無 |

2. 文献及び説明

文献1 : Lei, Weiya, Inhibitory effect of Panax notoginseng (arasaponin E1) on the central nervous system, Zhongcaoyao, 1986, Vol. 17, No. 1, Pages 15-18

文献2 : J. J. Nah, Effect of ginsenosides, active components of ginseng, on capsaicin-induced pain-related behavior, Neuropharmacology, 2000, Vol. 39, No. 11, Pages 2180-2184

文献3 : J. J. Nah, Effect of spinally administered ginseng total saponin on capsaicin-induced pain and excitatory amino acids-induced nociceptive responses, 1999, Vol. 23, No. 1, Pages 38-43

文献4 : Min Zhu, Biological test on schefflera glycosides and ginseng glycosides by radio-ligand receptor binding assays, 1999, Vol. 6, Pages 87-90

(i) 請求の範囲1-2に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1より進歩性を有しない。

文献1には、Arasaponin E1すなわちGinsenoside Rb1が、熱に対する刺激や化学的な痛みに対して鎮痛作用を有する旨記載されている(第15頁 概要)。

したがって、文献1の知見に基づき、Ginsenoside Rb1を有効成分として含む、疼痛の治療及び/又は予防のための医薬を調製することは、当業者が容易に想到し得ることである。

(ii) 請求の範囲3-4に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1-3より進歩性を有しない。

文献2及び3には、Ginsenoside類が脊髄レベルで疼痛を軽減する効果があり、該Ginsenoside類にはGinsenoside Rb1が含まれる旨が記載されている(文献2のAbstract, Materials and methods及び文献3のAbstract)。

したがって、文献1-3の知見に基づき、Ginsenoside Rb1を有効成分として含む医薬を脊髄レベルでの疼痛の軽減に用いることは、当業者が容易に想到し得ることであり、当該事項による格別の効果も認められない。

BEST AVAILABLE COPY

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

(i i i) 請求の範囲 5 に係る発明は、国際調査報告に記載された何れの文献にも開示されておらず、新規性及び進歩性を有する。特に、Ginsenoside Rb1が $\alpha_2\Lambda$ アドレナリン受容体作動効果を示す旨は、最も関連のある先行技術文献であると認められる文献 1 - 4 にも開示されていない。

BEST AVAILABLE COPY